

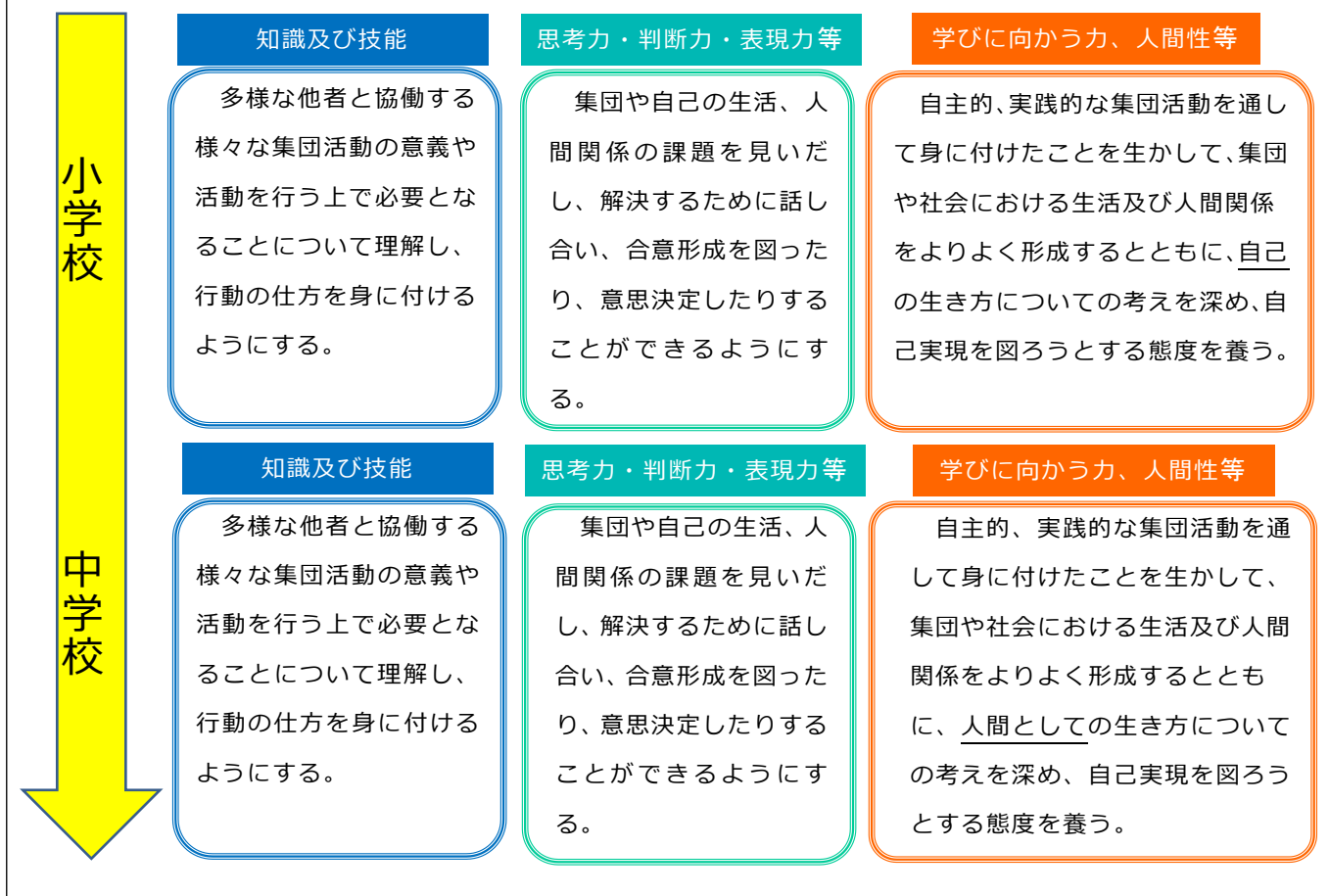
(5) 特別活動

育成をめざす資質・能力 ～何ができるようになるか～

特別活動では、児童生徒が学んだことを人生や社会での在り方と結び付けて深く理解したり、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けたり、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようになることが重要です。

【小学校特別活動 中学校特別活動 の目標】

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。



★目標の改善

「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」という三つの視点が、特別活動において育成をめざす資質・能力の重要な要素です。学習の過程においても重要な意味をもちます。この三つの視点は、明確に区別されるものではなく、相互に関わり合うものです。

具体的な教育内容の改善・充実 ～何を学ぶか～

★内容の改善・充実

特別活動全体を通して、自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力を育てることを重視しています。そのために、学級や学校の課題を見だし、よりよく解決するため話し合っ合意形成すること、主体的に組織をつくり役割分担して協力しあうことの重要性が明確にされています。

○小学校の学級活動の内容に「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」を新設

キャリア教育の視点から、小・中・高等学校のつながり(系統性)が明確にされました。

今回の改訂では、総則に、特別活動が学校教育全体で行うキャリア教育の要としての役割を担うことが示されました。指導に当たっては、キャリア教育に関わる様々な活動に関して、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活の意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこととしています。

○中学校の学級活動の「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」の内容の充実

中学校において、生徒が課題の解決に向けて話し合う活動に小学校の経験を生かして取り組むよう、(1)の内容を重視し、指導の充実を図るために、内容の項目が整理されています。

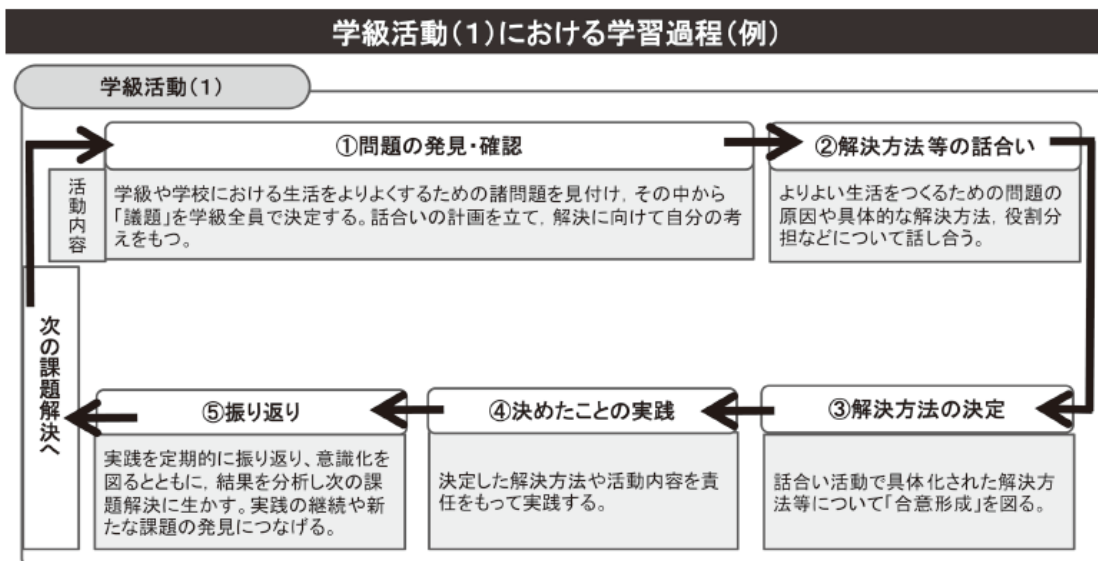
☞ 解説 小学校総則編 p.101~102・特別活動編 p.8~10 中学校総則編 p.99~101・特別活動編 p.8~10

主体的・対話的で深い学び ～どのように学ぶか～

特別活動における「深い学び」の実現のためには、課題の設定から振り返りまでの一連の活動を「実践」と捉え、基本的な学習過程を繰り返す中で、各教科等の特質に応じた見方・考え方(5・6ページ参照)を働かせ、各教科等で学んだ知識や技能などを、集団及び自己の問題の解決のために活用していくことが大切です。今回の改訂では、学級活動、児童会活動(小)、生徒会活動(中)、クラブ活動(小)、学校行事それぞれの学習過程の例が示されました。

《学習過程の例 中学校 学級活動(1)》

<解説 中学校特別活動編 P.42 より>



☞ 解説 小学校特別活動編 p.22~23、第3章、p.136~138 中学校特別活動編 p.21~22、第3章、p.113~115